

第1回南部町立小学校適正規模等検討委員会 議事録

- ◇ 日 時 平成26年7月22日(火) 午後3時00分開会
午後4時50分閉会
- ◇ 場 所 南部町分庁舎第201会議室
- ◇ 出席者 深澤謙治委員 尾山幹雄委員 四條勉委員 森田和人委員 遠藤優一委員
佐野よし子委員 萩原敬委員 木内利明委員 国友昭伸委員 望月幸司委員
山本純司委員
瀧政幸教育委員長 若林正昭教育長 青木司学校教育課長 佐野武人主幹
若林将基主査
- ◇ 欠席者 若林一明委員 遠藤友佳子委員 旗持文彦委員 佐野元気委員

[委 嘱 式]

- 1 開会あいさつ 若林教育長
- 2 委嘱状交付 瀧教育委員長より
- 3 教育委員長あいさつ
平成25年度の12月議会の一般質問に対して平成26年度に検討委員会の立ち上げすることを答弁した。それに基づき今回検討委員会を設置する。委員の皆さま方には平成27年度末まで委員をお願いしたい。
※ 学校教育課長から設置要綱における組織、任期、役員について説明した。
- 4 委員長、副委員長の選出
委員から事務局案の提案を要求。異議なしとして事務局案を提案する。委員長に尾山幹雄氏、副委員長に四條 勉氏を提案。全委員から了承される。
- 5 委員長あいさつ 尾山委員長
自分が教育委員をしていたときに前回(H20)の答申が出された。南部町の子どもたちのためによりよい教育環境を築くことを理念に進めてきた。今回の検討委員会も同じ理念のもとにいろいろな方の意見を聞いて進めていきたい。
- 6 諮問書について
瀧教育委員長から尾山検討委員長へ諮問書が手渡される。

—委嘱式終了—

[第1回検討委員会開会]

- ・検討委員会の議事録公開について、発言者の氏名は伏せ公開していきたい。この取扱いについて委員の了承を得る。
- ・事務局から資料に基づき説明をする。

◇質 疑

- 委 員) 具申書のP4には、小学校の適正規模が示されているが、仮に万沢小と富河小が統合したとしても1学年2学級、1学級20名にはならないのではないかと?そうであるなら、今回は現状とあった答申を出した方がいいのではないかと。
- 事務局) 具申書には適正規模の理想型を示しているが、実際に本町の現状をみると理想型にはな

らない。教育的視点や地域における小学校の存在意義等を総合的に勘案して、本町にあった方策を検討していくことが必要だと考える。

委員) 具申書の P13 の通学距離について、仮に万沢小と富河小が統合した場合に、通学距離 4 km 以内、適正な徒歩通学距離概ね 2 km 以内は超えてしまうのではないかと？

事務局) そのとおりである。安全確保や児童の体力等から上記の規定になっているが、本町の現状ではそうはいかない。現状でもスクールバスや循環バスを利用している児童もいる。通学手段においては安全確保を第一に本町の実情による方策を検討していく。

委員) 新聞は県内でも統合が進んでいると掲載されていて、理由として少子化と財政面から要素が大きいとされているが、この検討委員会では教育的視点から検討していくということによいか。

委員長) 前回の具申書の P4 にあるように、学校教育予算の削減、単純に少子化に伴う学校規模の縮小の対応といった消極的な理由からではないと言うように今回も教育的視点を軸に検討することでよいだろう。

事務局) そのとおりである。子どもたちに対する教育的視点から検討・協議していただきたい。

事務局) 昨年 12 月の教育委員長答弁でも、安易に物を進めるのではなく次世代を担う児童の成長を最優先に考えると答弁した。

委員) 保育所検討委員会でも小学校の統廃合が話題にのぼっている。前回の具申書提出時の人口推計と現状で差異があるので再検討した方がいい。併せて児童を増やす施策も検討していきたい。いずれにしても、検討委員会の設立に感謝申し上げる。

委員) 諮問書の諮問理由にもあるようにこの検討委員会では「教育的視点」から審議検証していけばよい。

委員) 子どもの少ない地域では、少人数では心配だ、距離が遠くても多数の仲間の中で生活した方が安心できるという意見を聞く。一方、少人数だからできることもある。そういういろいろな町民の意見を聞いて取り入れて協議していくことが必要である。

委員) いろいろな意見を聞いた方がいいのでアンケート調査を実施した方がいいと思うがどうか。

事務局) 前回の答申の折にも実施した。幼稚園、保育所、小中学校保護者は悉皆に実施し、地域住民として区長、組長にアンケートを実施した。

委員) 中学校が統合したので、その実績を基にしたメリット・デメリットの設問をアンケートに入れてほしい。

委員) 具申書の P12 のメリット・デメリットは小学校と中学校では違うので、整理した方がいいと思われる。また、適正規模の具体的方策を検討するにあたっては、前回の具申書中の小学校の適正規模では「万沢小は平成 25 年度以降さらに減少が予想される場合には富河小学校との統廃合を推進することが望ましい。南部地区では少子化がより一層進行した場合には睦合小学校と栄小学校を統廃合することが望ましい」と示されていて、双方では条件等に違いがある。この点はしっかり把握しなければならない。

委員長) メリット・デメリットはもっと細かいものを出す必要がある。クラスにいる男女別の人数もそうである。一方、小規模校からは学習面で優秀な成果を出すこともある。

委員) 児童本人によっても違いがある。小集団が合う児童もいるし、大きい集団が合う児童もい

るので一概に言えない。

- 委員) 児童数が少ない南部町の学校に入学して大丈夫かなと不安を持ち、町外に転出した人もいる。そういう方の意見を聞いた方がいい。
- 委員) 私自身が万沢小保護者に口頭で聞いたことがあり、統廃合についてはピリピリしている。統合には反対意見が多かった。また、万沢中学校の跡地へ建設したグリーンハイツ富士見へ町外から入居した者のなかでは、せっかく入居したのに保育所も小学校もなくなってしまっただけで困る、来た意味がなくなるという意見があった。
- 委員) 先を見据えた方針が必要である。中学校の統合実績や小学校と中学生の違いを押さえることは重要。アンケートについては細かいことを聞かれても場面設定など受取者によって違ってくるものが多く、結果に信憑性があるかどうかの疑問が残る。ただし、逆に漠然としすぎて困る。男女比などもアンケートのなかに入れた方がいいのではないか。
- 委員長) アンケートの内容について過小規模校の万沢小学校の教員の先生方の意見を聞いて、設問を作ってもいいのではないか。先生方はどう考えているのか、聞いてみたい。
- 委員) 人口の減少について調べているが、人口減に対してそれほど世帯数減が進んでいない。また、以前校長らが中心となって人口増への施策推進を町へ要望書として提出した。仮に理想的な適正規模にするには町内の全校が統合しないといけない数値である。万沢小の保護者は統合の要望はないという意見が多いというが実証する必要がある。保護者の反対が多いと統合は難しい。町では教育支援センターも設立されて教育に対する施策を推進している。これらの施策が進みまた、小学校同士の連携などが行われれば、社会性の育成なども小規模校のデメリットといわれる事項も解消されるかもしれない。そういう意味では統合ありきではなく、南部町の子どもたちをどう育てるかを議論することも必要である。
- 委員) 地域人材を活用して学校を活性化する動きがある。地域が学校に入ることによって、地域が元気になることもある。そういう意味では教育的視点も大切であるとともに地域的視点も大切である。小学校では校区にでて学習することがある。
- 委員長) われわれに求められているのは、統合か統合ではないかである。
- 委員) 統合ありきなのか、南部町の教育を考える会でいいのか。一般の方は今回、検討委員会が設立したことにより、客観的にいよいよ統合だなと感じているのではないか。
- 委員) 統合をせざるを得ない時期には来ているとも言える。ただ、町ではグリーンハイツ富士見を建設し人口増加施策を推進している。また、中野の土地に工業誘致も考えている。働くところがあれば南部町にも住みたい人もいる。いずれにしても、事務局で学校統廃合に係るアンケートの原案を考えてほしい。
- 委員) 万沢の父兄は統合に賛成、地域の人たちは反対というようなことを聞く。その実証をした方がいい。
- 委員) 保育所検討委員会では、小学校の統合について皆が興味をもっている。
- 委員) アンケート結果をどう読むか難しいことも考えられる。教育的視点から協議をするにしても、アンケート結果で経済的視点からの意見が多く寄せられた場合に検討委員会でどう判断するのか。
- 委員) アンケートに行きつく過程も大切だ。何も情報がない状況でアンケートした場合と、情報提供をした後で調査した場合では結果が違ってくる。保護者に統合した場合にどのようなメリット・デメリットがあるかをよく検討した後にアンケートを実施することも必要ではな

いか。アンケートに行きつくまでの過程も大切である。

委員) 一方的に文化の拠点がなくなるから反対という意見もでてくる。地域の方々は地域的視点から意見を出してくる。一方、保護者は違う見方をするので賛成が多い。万沢地区はそうですか？

委員) それは中学校の時の状況だと思う。小学校とは状況は違う。

委員) 小学校では教育課程で地域に出て学習することが多い。

事務局) 次回はアンケートの素案をお示しさせていただきたい。

事務局) 今後のスケジュールとして最終的に平成27年12月を目途に答申を出していただきたいと考える。

委員長) 小学校のメリット・デメリットを出してほしい。いろいろなところのメリット・デメリットを調べてほしい。

委員) 統合した小学校の視察をした方がいい。アンケート内容の材料とれる。

委員) 視察するなら、本町と同じような地域の学校へ行くべきである。

委員) 統合は地域から意見がでた方がうまくいく。今回の資料のなかで栄小の減少には驚いた。

委員) サンテラスの入所者に子どもがいないことがあげられる。

委員) アンケートの対象は。子どもたちもやるのか、地域と保護者は別々のほうがいい。

委員長) 小学生にアンケートはとらなくてもいいと思う。

事務局) 次回までに対象者、アンケート内容、事前広報の方法を提示したい。

事務局) 視察を待ってだとアンケートが遅くなるので、並行で進めたい。

委員長) 答申は、統合ありきでなく、統合しない場合もありうるというスタンスでいく。

委員) 具申書のなかを見ると町としては統廃合することが望ましいという意見なのか。

委員) 前回の検討委員会の答申を受けた具申書のなかではそのように示した。あくまでも前回時点での具申という考え方でよく。今回は今回でよいと思う。

委員) 前回の具申書では今の栄小のような児童数は想定できなかったもので、曖昧な表現としかできなかった。

事務局) 次回にアンケート素案を提示する。

委員長) 以上で協議を終了します。

閉会あいさつ) 副委員長

以上